書式２

教 育 研 究 業 績 書

平成 30 年 5 月 1 日
氏名　橋本　淳一　印

研究分野	研究内容のキーワード
児童家庭福祉、保育者養成教育	子ども・子育て支援、ワーク・ライフ・バランス、ライフスタイル、実習指導

教育上の能力に関する事項

事項	年　月	概要
１　教育方法の実践例 ①つどいの広場や幼稚園での保育実践フィールドワーク	平成 23 年 10 月～	「保育・教職実践演習（幼稚園）」において、幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認するため、近隣の東松幼稚園ほかでグループによる教育・保育実践（模擬保育）のフィールドワークを企画・指導・運営した。
②科学遊びアレコレ	平成 26 年 6 月～12 月	「スキルアップセミナーⅠ・Ⅱ」の専門コース別学習で保育内容（環境）に因む 3 つの科学遊び、①風とあそぶ～まんまる紙ヒコーキ／ビニール袋ロケット、②不思議な感触を楽しむ～手作りスライム、③水と空気に親しむ～色水／シャボン玉について、授業の進め方、指導法や指導上の留意点について演習の中で指導した。
③石坂幼稚園「お誕生日会」	平成 26 年 7 月	「基礎演習・スキルアップセミナーⅠ」での担任クラス学生有志を組織して、幼稚園のお誕生日会ゲストとして、ミッキーマーチ体操、大型絵本の読み聞かせなどのショーを企画し、進め方や指導法について実践的に指導した。
④埼玉育児院「クリスマス会」	平成 27 年 12 月～	「児童家庭福祉」履修者から有志を募り、児童養護施設でのクリスマス会に出演し、ペープサート上演や折り紙・まつぼっくりツリー作りのアトラクションを行い、施設の子どもたちと学生との交流を図った。
⑤遠足研究	平成 28 年 5 月～7 月	「総合演習」のクラスゼミ活動で、重要な園行事であり保育活動でもある遠足についてその意義をふまえ、園での遠足を想定して、大学周辺の代表的な遠足先である「子ども動物自然公園」（東松山市）、「森林公園」（東松山市）、「嵐山渓谷」（嵐山町）の 3 か所を目的地に、学生自身が“自然や文化などに親しむための遠足”等任意にテーマを設定して、企画・立案、しおり作成、記録、振り返りを行う体

		験的な学びを行った。
⑥児童文化財研究	平成 28 年 5 月 ～	「スキルアップセミナーⅠ・Ⅱ」の学習ゼミで、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター、絵本等の児童文化財の作品づくりを個人またはグループで行い、その製作過程や上演を通して子どもの言葉の発達や、知識や感性、想像力、社会性や道徳性などを育てることを目指した実践的な学びを指導した。
2　作成した教科書・教材 ①『2017 実習ガイドブック』 ＊平成 20 年度初版以降、各年度実習担当教員で毎年改訂刊行中。	平成 29 年 4 月	教育実習、保育実習、施設実習について、大学の実習スケジュールに沿って、実習の目的、手続き、実習内容、保育の観察法、日誌の書き方、指導案の立て方・書き方、保育実践、部分・責任実習の行い方、保育の評価、実習の振り返り等について概説した。
②『さまざまな製作、集団遊び指導案事例集』	平成 28 年 3 月	「クラス運営と教材研究Ⅰ・Ⅱ」の授業において、身近な素材を使ったさまざまな製作とルールのある集団遊びの指導案をグループ単位で作成するとともに、実際にロールプレイを行い学生の保育現場における実践力の育成に努め、その成果物として指導案事例集を取りまとめた。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		文学修士(社会学専攻)を有し、本学では実習科目と福祉系科目を担当。つどいの広場子育て教養講座の企画運営の他、地域の幼稚園、保育園、小学校との教育交流や町の委員会、学会発表等で力量を発揮している。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 ①出前講座	平成 20 年 9 月 ～	埼玉県立誠和福祉高校「家庭科」の授業で外部招へい講師として色画用紙の輪っかとストロー2 本で紙ヒコーキを製作する演習「風とあそぶ～まんまる紙ヒコーキ」を行う。 ＊以降同様の講座を、川越初雁高校、松山女子高校、山村国際高校、浦和第一女子高校、狭山緑陽高校、鴻巣女子高校、小川高校、鳩山高校、寄居城北高校、日高高校、富士見高校で行った。
5　その他		特記事項なし
職務上の実績に関する事項		
1．資格、免許		特記事項なし
2．学校現場等での実務経験		特記事項なし

３.実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
４．その他 ①審議会委員等	平成 23 年 6 月～24 年 3 月 平成 24 年 6 月～27 年 3 月 平成 25 年 10 月～27 年 3 月 平成 25 年度	鳩山町教育基本計画検討委員会委員 鳩山町次世代育成支援対策地域協議会委員 鳩山町子ども・子育て会議委員 一般社団法人短期大学基準協会　第三者評価評価員
②競争的資金等の研究	平成 24～26 年度	科学研究費助成事業・基盤研究（C）【課題番号 24530773】 研究課題：「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援ネットワークのあり方に関する研究」 研究代表：鈴木孝子、共同研究者：橋本淳一、村石理恵子、羽岡佳子、山村穂高
③講演会講師・シンポジウムパネラー等	平成 29 年 1 月 平成 29 年 6 月	埼玉県鳩山町児童虐待を考える講演会講師「どこからが虐待か？何が育児不安を起こすのか？～子育てを巡る 2 つのアンケート調査結果から考える～」（主催：鳩山町　会場：鳩山町役場会議室） 第 55 回埼玉県保育研究大会第一分科会「新たな時代の保育実践」助言者（主催：埼玉県 他　会場：本庄市文化会館）
④外部団体招聘公演企画 1 人形劇団プーク『“もりのへなそうる”併演“春・夏・秋・冬～森の四季～”』	平成 25 年 4 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 5 周年記念事業の一環として、日本で有数の人形劇団プークを招いて、鳩山町ふれあいセンターでの人形劇公演を企画・運営した。
2「ロバの音楽座」コンサート	平成 26 年 1 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 5 周年記念事業の一環として、鳩山町文化会館に NHK『おかあさんといっしょ』出演等で著名な「ロバの音楽座」を招いて、幼児・児童向けの音楽ショー公演を企画・運営した。
3 人形劇団プーク『“おれはママじゃない”併演“プー吉・チビのミニミニ劇場”～	平成 26 年 11 月	山緑祭（大学祭）でのイベントとして、前回の公演も好評を博した人形劇団プークを再度招き、学内芙蓉館ホールでの上演を企画した。
4 キッズスマイルカンパニー「ちゃりー&やっしーwithたなちゅう　親子ふれあいコンサート」	平成 30 年 1 月	鳩山町つどいの広場“ぽっぽ”開設 10 周年記念として、鳩山町地域包括ケアセンター地域交流のスペースを会場に、地域の親子だけでなく幼稚園等の子どもたちも招いて、キッズスマイルカンパニー「ちゃりー&やっしーwithたなちゅう」の親子ふれあいコンサートを企画、運営した。

担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
教育方法・技術論	（著書） １．『基本保育シリーズ第 20 巻保育実習』	共	平成 27 年 12 月	中央法規出版 （268 頁）	保育実習に臨む学生のための養成校における保育実習事前事後指導のテキスト。担当章は「第 14 講　施設における養護内容」で、施設の子どもたちを健やかに育てるための個別の支援計画や学習習慣、生活の質を高める工夫など、その支援や援助の実際を解説した。 編者：近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子、共著者：橋本淳一他全 20 名（159-172 頁）
	２．『2017 実習ガイドブック』 ＊平成 20 年度初版以降、各年度実習担当教員で毎年改訂刊行中	共	平成 29 年 4 月	山村学園短期大学 （131 頁）	教育実習、保育実習、施設実習について、大学の実習スケジュールに沿って、実習の目的、手続き、実習内容、保育の観察法、日誌の書き方、指導案の立て方・書き方、保育実践・部分責任実習の行い方、保育の評価、実習の振り返り等について概説した。共著者：橋本淳一、相沢和恵、黒澤一幸、室井佑美、山崎昌子（共同執筆により抽出不可）
	（教育実践記録等） １．「幼児の心を育てる保育者養成の実践的研究～授業改善に向けて～」	共	平成 22 年 3 月	平成 21 度山村学園短期大学子ども教育センター調査研究事業報告書 （61 頁）	平成 22 年度の新カリキュラム施行に備えて本学保育学科が行っている授業内容や授業方法、技術等を整理、見直しを行うことによって、今後の授業改善を図る研究。担当章は「§ 7 科学あそびを通して環境と関わる心を育てる」で、保育内容・環境の授業、特に科学あそびを中心に子どもの心を育てる教育実践の諸条件を考察した。共著者：三好勝、野口一夫、橋本淳一他全 8 名（45-52 頁）
	２．「子どもの遊び・遊び場と地域子育て支援～つどいの広場利用者のグループインタビューから～」	共	平成 24 年 9 月	全国保育士養成協議会第 51 回研究大会研究発表論文集 （556 頁）	地域子育て支援拠点事業（ひろば型）の利用者を対象としたグループインタビューから、特に子どもの遊びや遊び場に関するニーズを探り、公園整備、屋外の遊び場に対するニーズが高い実情を指摘した。共著者：村石理恵子、橋本淳一、羽岡佳子、鈴木孝子(550-551 頁)

	３.「特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって」	共	平成30年3月	武蔵野短期大学研究紀要第32号（80頁）	特別支援に配慮したこれからの保育者養成カリキュラムをめぐって、多様な視点から考察した。担当章では「Ⅱ．実習、授業内容、採用後のギャップ等の諸問題」として、特別支援に関わる2年生の養成校における実習指導や当該科目の授業内容、実習現場での関わり、卒業後の悩み等について検討した。共著者：浅川茂実、橋本淳一、酒井幸子他全7名（47-56頁）
実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	（著書） １.『2017実習ガイドブック』	共	平成29年4月	山村学園短期大学（131頁）	（再掲のため、略）
	（教育実践記録等） １.「指導計画立案を伴った部分･責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」	単	平成22年3月	山村学園短期大学紀要21号（85頁）	実習現場において学生たちが実際に指導計画を立てて行った部分・責任実習の主活動について、保育者と子どもの関係に遊びの種類による「ゲーム･運動遊び」「シアター」「製作」の３分類のモデルと、保育内容５領域の５分類のモデルとの2種類の分類モデルからその内容を分析した。(26-37頁)
	２.「形態素解析を用いた幼稚園教育実習における実習成果と課題に関する研究」	共	平成28年3月	山村学園短期大学紀要26号（144頁）	教育実習を選択した実習生 76 名を対象とした自由記述式の質問紙調査から、形態素解析を用い実習生の意識・能力の育成に繋がる事前指導と事後指導のあり方について考察した。共著者：田村美由紀、橋本淳一、石田道子、室井佑美、黒澤一幸（1-10頁）
	３.「ピアノのスキルは実習でどこまで求められているのか？～どんな曲をどのくらい弾けているのか～」	共	平成28年8月	全国保育士養成協議会第 55 回研究大会研究発表論文集（348頁）	実習後の「実習報告書（ピアノ）」のデータから、保育者養成課程の実習において実習生がどんな曲を弾いているのか、どのレベルで弾いているのか、その実態について明らかにするとともに、実習で求められるピアノのスキルについて考察した。共著者：橋本淳一　福泉博子（239頁）
	４.「テキストマイニングを用いた幼稚園教育実習生の障害児･気	単	平成30年3月	山村学園短期大学紀要28号（55頁）	特別の支援が必要な子どもに対する保育実践をめぐる調査研究で、学生の幼稚園教育実習現場における障害児や発達障害など気になる子

	になる子への認識と対応の分析」				との関わりの経験と、その障害児・気になる子への認識と対応の実態をテキストマイニング分析から把握し、今後の保育者養成や実習指導で求められる障害・特別支援への対応を考察した。(37-55 頁)
保育・教職実践演習(幼稚園)	(著書) 1.『2017 実習ガイドブック』	共	平成 29 年 4 月	山村学園短期大学 (131 頁)	(再掲のため、略)
	(教育実践記録等) 1.「指導計画立案を伴った部分・責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」		平成 22 年 3 月	山村学園短期大学紀要 21 号 (85 頁)	(再掲のため、略)
	2.「子育ての悩みと保育園・幼稚園における支援の研究」	単	平成 20 年 5 月	日本保育学会第 61 回大会発表論文集 (837 頁)	埼玉県鳩山町で行った調査をもとに、0 歳から就学前の子どもを持つ保護者の日常的な子育ての悩みについて分類を行うとともに、これに対する保育園・幼稚園の支援のあり方について考察した。(242 頁)
	3.「指導計画立案を伴った部分・責任実習での主活動の内容～保育実習Ⅱ報告書の記述からの検討～」	共	平成 22 年 3 月	山村学園短期大学紀要 21 号 (85 頁)	(再掲のため、略)
	4.「町の子ども子育て自然環境と社会資源を踏査する～B 町子ども・子育て支援ネットワーク調査に関連して」	共	平成 27 年 9 月	全国保育士養成協議会第 54 回研究大会研究発表論文集 (340 頁)	「社会資源を活用した町型子ども・子育て支援ネットワークのあり方に関する研究」に関連して、子ども・子育て支援に関わる地域の自然環境や社会資源(特に保育施設、公園など)を対象に実際に踏査することで、そこで子育てをする人々にとっての生活資源や社会環境へのアクセスビリティを考察した。共著者:橋本淳一、村石理恵子、山村穂高(328 頁)